今回はタミヤのラングを製作しました。構成は正にタミヤスタンダード、組み立てにストレスを感じることは一切ありません。また、純正オプションでアルミ砲身（+主砲の閉鎖機周り）が用意されています。手軽な値段で特にアルミ砲身は効果的なデティールアップですので、ぜひ導入してみて下さい。作例でも組み込んでいます。

ラングは平面構成の多いドイツ戦車でもとびきり面が目立つ車両ですので、塗装は欧州風にバタ臭く仕上げています。ベースは白サフとしました。基本のダークイエローはクレオスのMr.カラーのモジュレーションセットを使い、更にハイライト側には白とクリーム色を追加。シャドウ側もブラウン方面にもう一段追加してコントラストを上げています。迷彩の他2色もモジュレーションをかけて、全体のグラデーションから浮かないようにしてあります。

基本塗装後にデカールを貼り、エナメルのダークブラウンで墨入れ。その後ラッカー系のクリアで面を保護し、ウェザリングに入っていきます。まずファレホの819 Iraqi Sand, 994 Dark Grey, 982 Cavalry Brownでチッピングを入れて行きます。その後薄めに希釈したハンブロールのサンド系色を全体に吹き、綺麗な平筆にシンナーを含ませて拭き取ります。この時側面は必ず垂直に筆を動かすようにし、埃が雨等で流れ落ちた様子を再現します。同様の方法でAK InteractiveのAK012、AK013で装甲面上の雨垂れを再現すると同時に、面の情報量を増やします。

エンジンデッキ上に積まれている予備転輪についてはAK013を濃い目に塗り、拭き取り加減を弱め、放置されて錆が浮き始めている感を出します。履帯と予備履帯の塗装は同一ですが、予備履帯の方には同じく錆を多めに足し、こちらもラックに長く晒されているような雰囲気を持たせました。足回りを各種ピグメントで汚せば完成です。

付属のフィギュアは非常にシャープですが、顔立ちのデフォルメが少なく中々難しい顔立ちです。作例ではリバーシブルの白面を表に出しています。やはりノッペリとした形の写真ですので、各種フィギュアを添えてみました。如何でしょうか？

近況

休刊との知らせを聞いて驚きました。短い間ですが色々と御世話になりました。またいずれどこかでお会い出来る事を楽しみにしています。宜しければ手前のブログもご覧下さい。 http://kpn.sakura.ne.jp